

# 提携米通信

2020年8月号・黒瀬農舎

豪雨・コロナ並びに暑中お見舞い致します。



田植え後、日曜以外毎日、草取りに頑張って頂いた女性の皆さん。午後4時半に近くになって「除草作業終了地点の日印のポールを立てる準備中」のナップです。 2020.7.28

7月に襲った九州や中部地方の豪雨は凄まじい様子。

お見舞い申し上げます。

日本も熱帯地方並みのスコールが襲うようになってきました。原因は地球温暖化による海水温度の上昇だと専門家の方は分析しています。

一方でコロナ問題は収束するどころか、盛り返してきました。

コロナの今後の展開は予想

も出来ない状況です。

その上、これから集中豪雨の前線が去った後は、たぶん日本中を酷暑が襲うと思われれます。今年は難儀な夏と予想されます。

私も2、3年前に後期高齢者に仲間入りし、免疫力も衰える歳になりました。食生活など日常の健康管理に努めないと、自分自身や家族だけでなく、周りの人々にも迷惑をかける心しています。皆さんもどうぞご自愛下さい。

ところで、当地の今年の田んぼの方は、豪雨災害の地域の方には申し訳ない気がしますが、豪雨どころか、雨も少なめでイネはすこぶる順調です。

先月末には、秋の収穫作業が出来るように田圃を乾かす工程に入り、田圃の水を落としました。

これで、田植えからの約2ヶ月にわたる草取り作業は一時中断です。マガモ君は故郷に引き上げ、パートの女性の方も、田圃が乾くお盆頃まで作業はお休みになります。

皆さんには、メロンなど買い求めお礼に配りました。

このように、今年のお米作りは順調に前半を終え、これから本命のイネが稔る後半期に入り、また、人知や努力では防げない、台風来襲の時期と重なります。私たち生産者の誰もが日々災害の無いことを祈りたくなる季節です。

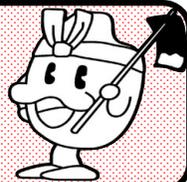
## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

### 黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。  
★変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までに連絡下さい。  
★お米のご贈答利用も宜しくお願ひします。

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) Web: [提携米 黒瀬農舎](#) [検索](#)

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承願ひします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

## ブナも、田圃も、水陸共に雑草との闘いです。



毎年、秋に植栽したブナは、3年から4年は、夏に下草を刈らないとブナの木は、草に埋もれ枯れてしまいます。理想的には、5月末から6月に山に入り下刈りするのが良いのですが、田んぼの作業と重なって、とても無理です。今年は7月28日にブナの山に向いました。

案の定、時期は遅過ぎて、ブナはツタや雑草の下に埋もれ、息絶え絶えの状態です。

参加者一同ブナの救出に必死になりたくなる気持ちです。この時期、山は涼しげに思われますが、稜線・尾根は風

があっても、ブナの植栽地は、風もなく、晴天日は草いきれでムシムシし、苦しい限りです。この日は、豪雨予報が出ており、秋田県の南部では、雄物川の支流が氾濫し大騒動でしたが、ブナの植栽地は、霧雨が時々降るという作業には絶好でした。

この数年続けている第4植栽地は、今までの国有林とは異なり、一時期スキー場に転用され荒れていた場所の復元を目指していることで、ツル性の雑草が多く、普通なら植栽3、4年の下刈りで大丈夫ですが、ここは5年経ち、ブナが背丈を遥かに超えるまでに成長していても、手当てしないと、クズなどツル性植物に枯らされてしまいます。

作業中は、この数年問題になっているツキノワグマの子供が、4、5メートル先まで近寄ってくるというハプニングがありました。

熊に詳しい方によれば、小熊に遭遇することは、近くに親熊がおり、小熊を守るため、親熊が襲ってくる一番危険な状態と言います。

全員直ぐに作業を中断して、爆竹をあちこち点火し、火薬の匂いで熊を防ぐ対策後に作業を再開しました。



今年のマガモ君の活躍度は50点。

今年の除草は、前半の作業を終えたところですが、成果は、昨年よりも好成績のようです。

と言いましても、8月のお盆過ぎになれば、所々にヒエの穂が一杯頭を覗かせると思いますが……。

昨年よりも好成績の原因と言うか、成果は、特製の自作除草機の部分的な改良と、作業時期の適正化によるものと思われる。

何度も報告していますが、無農薬の除草方法で、完璧な方法は全くありません。

殺草、抑草効果に結びつく方法を幾つも組み合わせ、緻密な管理で草を抑えるしか方法がないのです。

そして、こまったことに、除草に限らず、農作業の成果は、平均点や偏差値で計ることができず、どれか一つを失敗すれば、その最低点はその年の成果になってしまうことです。

例えば、幾ら素晴らしい苗を育てても、田植えを失敗すれば、ダメ。田植えが上手くいっても、肥料が多すぎ、イネが倒れたり、病気を出せばそれでダメ。

もっと言えば、栽培管理は徹底していても、収穫間際になって台風でやられれば、それまでの努力は水泡に帰します。

このようなお米づくりだから、苦しいですが楽しいのです。今年も無事収穫を迎えられるよう頑張っていきます。



今年の機械除草の活躍度は90点。